

<si P> の動詞時制

曾我祐典
(関西学院大学)

フランス語では、「事態 P がある状況なら事態 Q がある」や「事態 P がある状況には事態 Q がある」といったことを、しばしば <si P, Q> の構文で表す。発話者は想像上のまたは現実の「P がある状況」を <si P> によって表すわけである (si の仮定用法と現実用法)。<si P> に用いる動詞時制は図 1 のとおりである。

図 1

	過去の状況	現在の状況	未来の状況
現実用法	複過・半過・大過	現在・複過	未来・前未
仮定用法	▲ ありそうな 複過・半過・大過	現在・複過	
	▼ なさそうな 大過	半過・大過	

<si P> の動詞時制の選択については不明な点が少なくない。

たとえば、仮定用法の (01), (02) を見てみよう。

(01) *S'il fait /*fera* beau dimanche, il y aura beaucoup de touristes dans ce quartier.

(02) *Si jamais elle est partie /*sera partie* quand j'arriverai, je lui laisserai un mot.

このように未来の状況を仮定する場合は現在形・複合過去を用いるのであって未来形・前未来は容認されないが、理由については必ずしも納得のいく説明がなされていない。

また、(03), (04) を見よう。

(03) *Notre grand-mère qui nous a quittés, si elle avait pu être avec nous en ce moment, cela aurait été tellement mieux.*

(04) *S'ils n'avaient pas remis leur manuscrit la semaine prochaine, la revue paraîtrait sans leur article.*

発話者が仮定しているのは、(03) では現在の現実には反する状況であり、(04) では未来の現実味のうすい状況であると聞き手は解釈する。このような場合に大過去を用いるしくみについては、十分な説明がなされていない。

次の (05), (06) は、(03), (04) の過去版とも言えるものである。

(05) *Notre grand-mère qui nous a quittés, si elle avait pu être avec nous hier, cela aurait été tellement mieux.*

(06) *S'ils n'avaient pas remis leur manuscrit la semaine dernière, la revue aurait paru sans leur article.*

発話者が仮定しているのは過去の現実には反する状況であると聞き手は解釈する。このような場合に大過去を用いるしくみが (03), (04) の場合と同じであるかどうかは、論じられて

いないようだ。

現実用法はどうか。すでに現実になっている状況を現在形・複合過去や半過去・大過去の <si P> で表す発話だけでなく、未来の状況を未来形・前未来の <si P> で表す (07), (08) のような発話もあることはあまり知られていないようだ。

(07) Si elle *aura* toutes les chances d'être nommée à Paris, c'est qu'elle *aura* su maintenir son effort.

(08) Si le train *sera* déjà *parti*, on pourra toujours y aller en voiture.

このような発話は使用頻度が低いようだが、容認されるのがどのような場合であるかについての記述はまだないようだ。

本発表では、対話場面における聞き手の受け取りかたを重視する立場から、<si P> の動詞時制使用を概観し、いくつかの点を明らかにしたい。